



OSJBホールディングス株式会社

証券コード：5912

第4期 株主通信

2017年4月1日から2018年3月31日まで

An aerial photograph of a multi-lane highway bridge spanning a valley. The bridge is supported by concrete pillars. In the background, a hillside is covered with a grid-patterned structure, possibly a slope stabilization or a large-scale construction project. The foreground shows a dirt road and some vegetation.

人と技術を活かし、
社会基盤整備に貢献します。



株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに、当社第4期（2017年4月1日から2018年3月31日まで）の事業の概況等についてご報告させていただきますので、ご高覧賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 大野 達也

当期の事業概況

当連結会計年度におけるわが国経済は、海外景気の緩やかな回復を背景に、輸出、生産は増加基調にあります。企業収益の改善や業況判断が改善基調を維持しているなか、設備投資は緩やかに増加しております。労働需給の引き締まりが続いており雇用情勢は着実に改善しているなか、雇用者所得の緩やかな増加を背景に個人消費は持ち直しており、景気は緩やかに回復しております。

公共投資につきましては、国の2017年度一般会計予算において前年度当初予算を上回る公共事業関係費の予算措置や補正予算では「災害復旧等・防災・減災事業」に係る予算措置が講じられるなど、公共投資は高めの水準を維持しつつ底堅く推移しております。

このような状況におきまして、当社グループ全体で受注活動に取り組んだ結果、当連結会計年度の受注高は、

経営理念

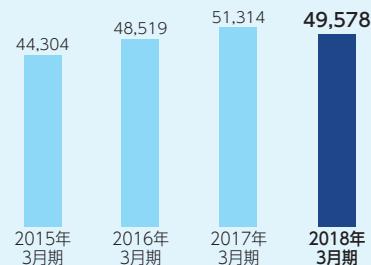
人と技術を活かし、
社会基盤整備に
貢献します。

連結決算 ハイライト

2015年3月期から
2018年3月期まで

Highlight

売上高（単位：百万円）



517億8千6百万円(前年同期比19.3%減)となりました。前連結会計年度に建設事業において大型物件の受注獲得があり、前年同期比は減少となっておりますが、当連結会計年度の実績としては例年の水準を確保しております。

当期の主要な受注は、以下のとおりであります。

建設事業

- **ニューマチックケーソン工事**
京都府
「桂川右岸流域下水道洛西浄化センター建設工事(呑龍ポンプ場土木)」
- **コンクリートの新設橋梁工事**
国土交通省北海道開発局
「日高自動車道新冠町大狩部橋上部工事」
- **橋梁の補修補強工事**
西日本高速道路株式会社
「中国自動車道(特定更新等)北房IC～大佐スマートIC間(上り線)土木更新工事」
- **一般土木工事**
清水建設・東急建設特定建設工事共同企業体
「首都高馬場AランプSLJ床版工事」

鋼構造物事業

- **鋼構造の新設橋梁工事**
国土交通省中部地方整備局
「2017年度東海環状大木高架橋鋼上部工事」
- **橋梁の補修補強工事**
中日本高速道路株式会社
「名神高速道路(特定更新等)多賀橋他1橋橋梁補修工事」

売上につきましては、大きな工程の遅れはなかったものの、売上高は495億7千8百万円(前年同期比3.4%減)となり、その結果、受注残高は、551億5千1百万円(前年同期比4.2%増)となりました。

損益面では、売上総利益は73億4千2百万円(前年同期比4.4%増)、営業利益は32億1千2百万円(前年同期比7.7%増)、経常利益は33億1千7百万円(前年同期比9.0%増)となり、親会社株主に帰属する当期純利益は21億3千万円(前年同期比20.0%減)となりました。

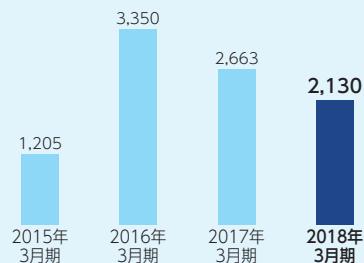
営業利益 (単位:百万円)



経常利益 (単位:百万円)



親会社株主に帰属する当期純利益(単位:百万円)



セグメント別概況

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

建設事業

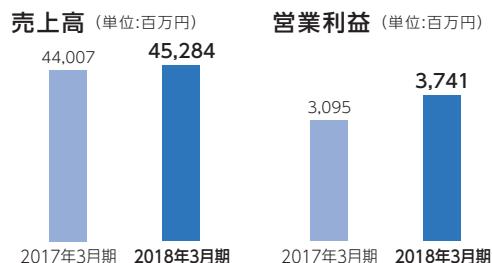


オビラシケ川橋

売上高 **45,284**百万円

当セグメントの売上高は452億8千4百万円(前年同期比2.9%増)、セグメント利益(営業利益)は37億4千1百万円(前年同期比20.8%増)となりました。

営業利益 **3,741**百万円



鋼構造物事業

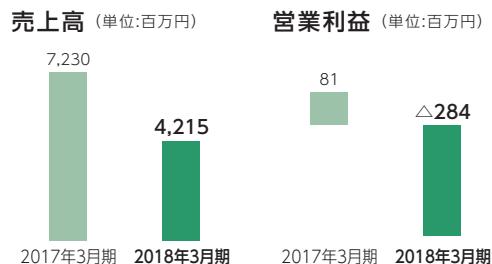


竜の口橋りょう

売上高 **4,215**百万円

当セグメントの売上高は42億1千5百万円(前年同期比41.7%減)、セグメント損失(営業損失)は2億8千4百万円(前年同期はセグメント利益(営業利益)8千1百万円)となりました。

営業利益 \triangle **284**百万円



その他

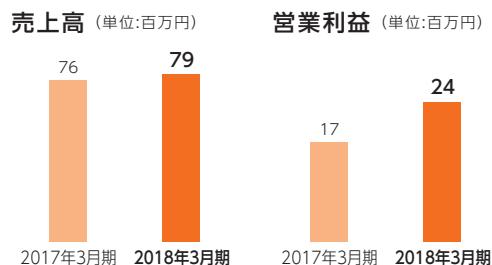


西脇太陽光発電所

売上高 **79**百万円

太陽光発電による売電事業により、売上高は7千9百万円(前年同期比3.6%増)、セグメント利益(営業利益)は2千4百万円(前年同期比42.8%増)となりました。

営業利益 **24**百万円



次期の見通し

公共投資市場は、2020年東京オリンピック・パラリンピックに関連する事業、リニア中央新幹線や整備新幹線といったインフラ整備プロジェクトに加え、災害復旧等・防災・減災事業及び全国的高速道路の大規模更新事業の展開が見込まれ、今後の建設需要は底堅く推移する見通しであります。建設業においては、生産性の向上、担い手の確保、ガバナンスの強化といった課題も山積しております。

当社グループでは、中長期的な企業価値の増大を目指すべく2017年5月に「中期経営計画(2017-2019)～『らしさ』で築きあげる安定と成長～」を策定しスタートさせました。中期経営計画の2年目となる第5期におきましても、計画達成に向けグループ一丸となって

取り組み、企業価値の一層の向上に努めてまいります。

当該状況を勘案し、次期の通期連結業績予想は、売上高520億円、営業利益35億円、経常利益35億円、親会社株主に帰属する当期純利益23億円としております。

なお、業績予想につきましては、現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

	2018年3月期(実績)	前年同期比	2019年3月期(予想)	前年同期比
売上高	49,578百万円	3.4% 減 ▼	52,000百万円	4.9% 増 ▲
営業利益	3,212百万円	7.7% 増 ▲	3,500百万円	8.9% 増 ▲
経常利益	3,317百万円	9.0% 増 ▲	3,500百万円	5.5% 増 ▲
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,130百万円	20.0% 減 ▼	2,300百万円	8.0% 増 ▲
1株当たり当期純利益	17.81円	—	19.24円	—
1株当たり配当金	6.00円	—	6.00円	—

当社グループは、2017年度(2018年3月期)を初年度とし、2019年度(2020年3月期)までの3ヵ年を対象とした「中期経営計画(2017-2019)～『らしさ』で築き上げる 安定と成長～」に則り、着実に事業を遂行しています。

中期経営計画(2017-2019)～『らしさ』で築き上げる 安定と成長～概要

基本方針

- 独自技術の強化と適用範囲の拡大を通じ、橋梁の上下部工・ニューマチックケーソン・プレストレストコンクリート建築・維持補修工を主軸として、長期安定収益の確保を図る。
- 事業の成長・拡大に向けた新たな事業・投資戦略等に対する適切なリスクマネジメントや内部統制の強化等を実施し、攻めと守りのバランスのとれたガバナンスを通じ持続的企業価値の向上を図る。

経営指標目標

2020/3期

売上高

550億円

経常利益

35億円

	2018/3期	2019/3期	2020/3期
	実績	目標	計画
売上高	495億円	520億円	550億円
経常利益	33億円	35億円	35億円
経常利益率	6.7%	6.7%	6.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	21億円	23億円	25億円
ROE	8.7%	—	10%程度
配当性向	33.7%	—	30%程度
総還元性向	35.6%	—	40%程度



事業別戦略

既存事業の収益力強化

- 建設事業の4つのセグメントを強化
 - ➔ コンクリート製新設橋梁
 - ➔ ニューマチックケーソン
 - ➔ 補修・補強
 - ➔ PC(プレストレストコンクリート)建築
- 大型プロジェクト工事の積極受注
 - ➔ 北陸新幹線延伸
 - ➔ 中央新幹線 など
- 鋼構造物事業の再編
 - ➔ 工場を集約しコストを圧縮
 - ➔ 補修・補強部門を強化

新規・新領域事業への進出

- 新たな事業分野を開拓

研究開発の強化と戦略的投資

- 新たな技術・素材・工法を開発
- 戦略的投資

経営基盤進化

経営課題への積極的な取り組み

- 人材マネジメント・働き方改革
- 業務の効率化
- 協力会社との協働
- 健全な財務基盤の維持
- コーポレートガバナンスの強化

株主還元方針

安定した利益配当を継続実施

- 安定配当
- 機動的に自社株買いを実施
- 総還元性向30%以上を目標に設定

中部横断自動車道椿川橋上部工事

椿川を横断する最大支間98mの連続箱桁橋

新東名高速道路と中央自動車道を結ぶ、中部横断自動車道南部IC～下部温泉早川IC間の橋梁工事です。本橋の上部構造は最大支間98mのPC5径間連続箱桁橋であり、架設位置は椿川を横断するように設計され、架設方法は張出し架設工法で行います。

工事名称	中部横断椿川橋上部工事
工事箇所	山梨県南巨摩郡身延町丸滝～帯金
工期	2015年8月26日～2018年6月29日
発注者	国土交通省関東地方整備局
施工業者	オリエンタル白石株式会社
工事内容	PC5径間連続ラーメン箱桁橋 橋長：L=387.0m 幅員：11.140m 支間長：51.9m+90.0m+98.0m+90.0m+54.9m 架設方法：張出し架設工法

完成イメージ



Q 張出し架設工法とは？

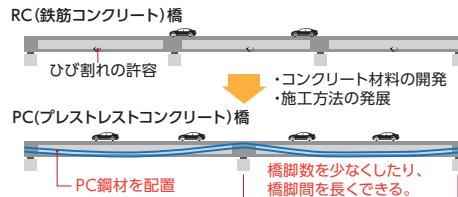
A “やじろべえ”のようにバランスをとって橋を作る方法のことです。



移動作業車(ワーゲン)

橋脚から左右にバランスをとりながら、地上から支えなしで移動作業車(ワーゲン)を用いて、支間中央に向かってブロックごとに、コンクリートを少しずつ(約2m～4m)打ち継ぎながら順次張り出していきます。

引っ張るかに強いPC(プレストレストコンクリート)を使用!

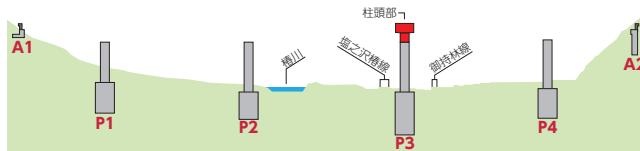


PC鋼材を用いて、ひびわれを生じさせない構造とし、鉄筋コンクリートよりも橋脚数を少なくしたり、橋脚間を長くすることができます。

工事施工手順

STEP 1

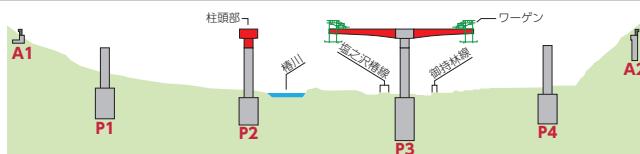
P3部分：橋脚柱頭部の施工



STEP 2

P3部分：橋脚から張出しながら
施工

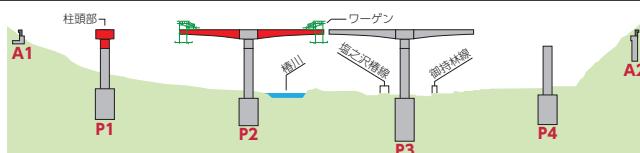
P2部分：橋脚柱頭部の施工



STEP 3

P2部分：橋脚から張出しながら
施工

P1部分：橋脚柱頭部の施工

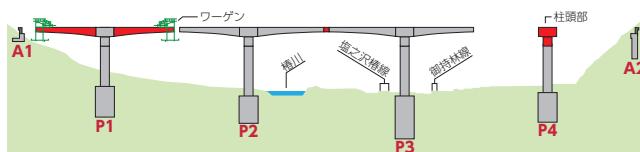


STEP 4

P1部分：橋脚から張出しながら
施工

P4部分：橋脚柱頭部の施工

P2-P3間：中央閉合部の施工



STEP 5

P4部分：橋脚から張出しながら
施工

A1部分：側径間の施工



STEP 6

P1-P2部分：中央閉合部の施工

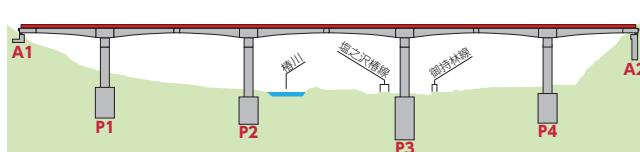
A2部分：側径間の施工

P3-P4間：中央閉合部の施工



STEP 7

橋面を施工し、仕上げ



着工前



脚頭部施工



柱頭部施工



移動作業車組立



張出し架設施工



独自の工法と特化技術で社会基盤を創造する



ホームページのご案内
<http://www.orsc.co.jp/>

会社概要 (2018年3月31日)

商号	オリエンタル白石株式会社
創業日	1952年10月21日
資本金	5億円
従業員数	674名
事業内容	プレストレストコンクリートの建設工事および製造販売、ニューマチックケーソンの建設工事、補修補強の建設工事、耐震補強建築工事の設計・施工、建設資材の販売、太陽光による発電事業およびその管理・運営ならびに電気 の供給、販売
所在地	東京都江東区豊洲五丁目6番52号
代表者	代表取締役社長 大野 達也

既設床版撤去 (平出高架橋)

現場紹介 辰野TN～伊北IC間改良工事

中央自動車道の岡谷JCT～伊北IC間にある「天竜川橋」「平出高架橋」は、1981年の供用開始から36年が経過しており、交通量の増加等の影響で床版が著しく損傷しています。「辰野トンネル」においても経年劣化の影響により、天井や側壁コンクリートにひび割れや損傷が点在しています。本工事は、NEXCO中日本の高速道路リニューアルプロジェクトの一環として、これらの補修・補強を行っています。

「天竜川橋」「平出高架橋」では、既設の鉄筋コンクリート床版を撤去し、滋賀工場で作成したプレキャストPC床版に取替えを行い、橋の耐久性向上を図る工事を実施。「辰野トンネル」では、天井、側壁コンクリートの補修・補強を行い、トンネルの安全性と耐久性の向上を図る工事を実施しています。

本工事では、工事を行うために、施工する車線(例えば上り線)を交通規制し、下り線側を対面通行としています。大型LED掲示板や連動式渋滞感知装置などを使用して一般の方への渋滞情報の提供や注意喚起などを行っているほか、有事に素早い対応ができるように規制区間にウェブカメラを22台設置し、現場の交通監視室で24時間体制で監視を行っています。



プレキャストPC床版工場製作

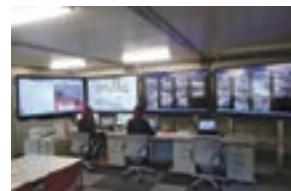


プレキャストPC床版架設(天竜川橋)

契約工事名称	中央自動車道(特定更新等)辰野TN～伊北IC間改良工事(2016年度)
発注者名	中日本高速道路株式会社 八王子支社
工事場所	長野県上伊那郡辰野町
工期	2016年12月8日～2019年8月24日
工事概要	橋梁工 床版取替工(2橋) 2,300㎡ トンネル工 覆工コンクリート内面補強 2,500㎡ はく落防止対策工 6,000㎡



はく落防止シート施工(辰野トンネル)



交通監視室

常に新しい技術と品質の向上に挑戦



ホームページのご案内

<http://www.nihon-kyoryo.co.jp/>

会社概要 (2018年3月31日)

商号	日本橋梁株式会社
創業日	1919年7月7日
資本金	4,000万円
従業員数	106名
事業内容	橋梁等の鋼構造物の設計・製作・架設工事・補修補強の建設工事
所在地	大阪府大阪市西区江戸堀一丁目9番1号
代表者	代表取締役社長 坂下 清信

現場紹介 (仮称)岡崎ICランプ橋工事

本工事は、群馬県吾妻郡東吾妻町岡崎交差点のそばに位置する上信自動車道(国道353号 祖母島～箱島バイパス)のICランプ橋工事です。

国道353号は、斜面崩壊による通行止めや冬の路面凍結等による走行速度の低下が課題となっていました。

高速交通網空白地という弱点を克服し、自然や温泉といった地域資源を十分に活用するためにも早期の上信自動車道整備が求められています。

架設工法は『ケーブルエレクション直吊工法』で、橋梁下の空間が急峻な谷地形でバントの設置やクレーンが進入できないような場所で採用されます。両岸に鉄塔を建て主索を張りバックアンカーで固定します。主索に直吊り索を吊り下げ、バント替わりの受梁を取付けます。架設は同様に鉄塔に張ったケーブルクレーンで行います。

契約工事名称	(仮称)岡崎ICランプ橋上部工製作架設工事		
発注者名	群馬県 (中之条土木事務所)		
工事場所	吾妻郡東吾妻町大字岡崎地内		
工期	2016年3月25日～2018年3月15日		
工事概要	鋼単純下路式ランガー橋		
	橋長：102.0m	支間長：100.7m	
	幅員：8.2m	鋼重：521.8トン	



仮組み立て状況



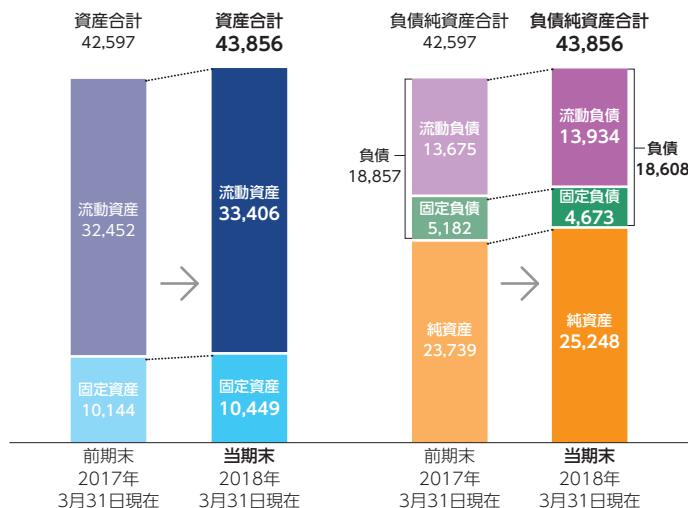
ケーブルクレーン架設状況



ケーブルクレーン架設状況

連結貸借対照表の概要

(単位:百万円)



POINT 1 流動資産

流動資産は、前期末に比べ2.9%増加し334億6百万円となりました。これは主に受取手形・完成工事未収入金が30億2千2百万円減少しましたが、現金及び預金が32億1千3百万円、未成工事支出金が7億7千9百万円増加したことなどによるものであります。

POINT 2 固定資産

固定資産は、前期末に比べ3.0%増加し104億4千9百万円となりました。これは主に土地の売却により1億8千3百万円減少しましたが、投資有価証券が5億7百万円増加したことなどによるものであります。

POINT 3 流動負債

流動負債は、前期末に比べ1.9%増加し139億3千4百万円となりました。これは主に支払手形・工事未払金が2億1千4百万円、未成工事受入金が2億9千8百万円減少しましたが、未払金が2億5千6百万円、その他が3億1千9百万円増加したことなどによるものであります。

POINT 4 固定負債

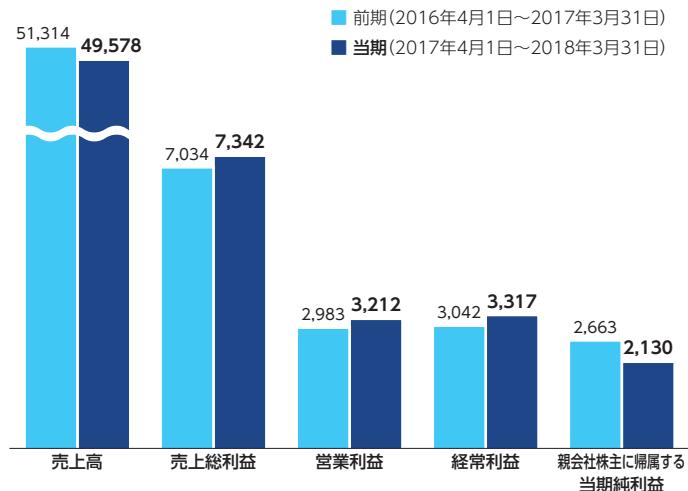
固定負債は、前期末に比べ9.8%減少し46億7千3百万円となりました。これは主に長期借入金が2億8千5百万円減少したことなどによるものであります。

POINT 5 純資産

純資産合計は、前期末に比べ6.4%増加し252億4千8百万円となり、自己資本比率は57.6%となりました。

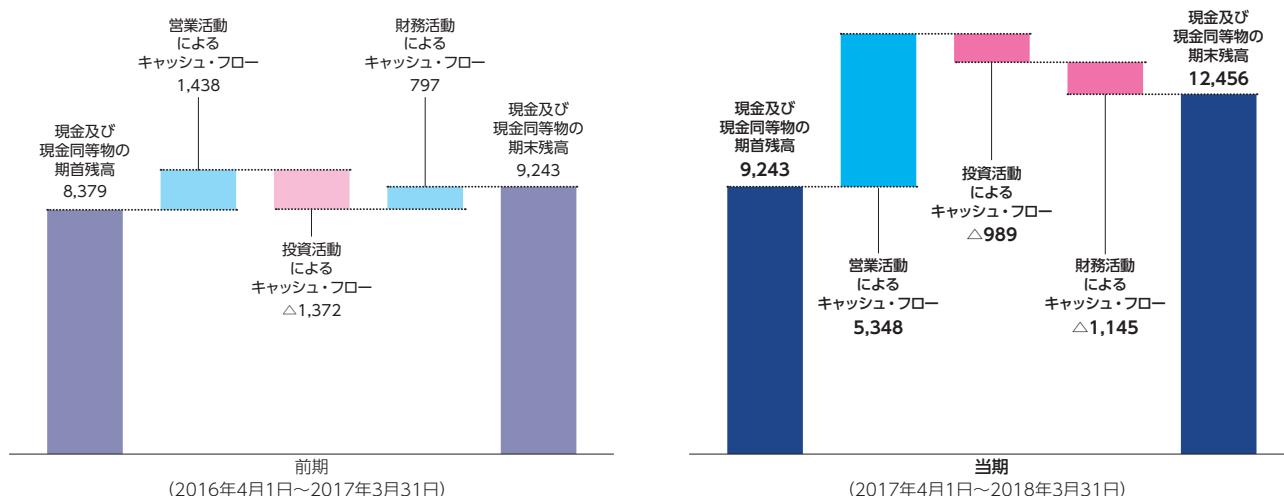
連結損益計算書の概要

(単位:百万円)



連結キャッシュ・フロー計算書の概要

(単位:百万円)



POINT 6 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動による資金の増加は53億4千8百万円(前年同期比271.8%増)となりました。これは主に法人税等の支払額9億8千1百万円がありましたが、売上債権の減額27億2千3百万円、税金等調整前当期純利益34億4千6百万円によるものであります。

POINT 7 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動による資金の減少は9億8千9百万円(前年同期比27.9%減)となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出10億1千2百万円によるものであります。

POINT 8 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動による資金の減少は11億4千5百万円(前年同期は7億9千7百万円の増加)となりました。これは主に配当金の支払額7億1千8百万円、長期借入金の返済による支出2億8千5百万円によるものであります。

利益配分に関する基本方針および当期・次期の配当

当社は、株主への安定した利益還元を経営における最重要課題のひとつと考え、安定した利益配当を継続して実施することを基本方針としております。当期の配当につきましては、業績等を総合的に勘案した結果、普通株式1株当たり6円とさせていただきます。

次期につきましても、基本方針に従い年間普通配当金については当期と同額の6円を予定し、可能な限り株主の皆様への利益還元に努めてまいります。

1株当たり配当金 (単位:円) / 配当性向 (単位:%)



株主アンケート結果

2017年12月実施の「中間株主通信」に同封いたしました「株主アンケート」におきましては、数多くの株主様よりご回答を頂戴いたしました。ご回答いただきました株主の皆様におかれましては、お忙しい中ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

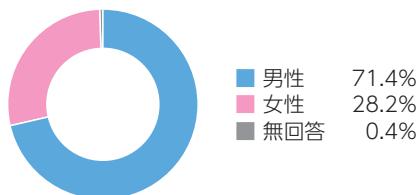
なお、頂戴いたしました株主様からの貴重なご意見・ご要望等につきましては、今後の経営やIR活動等の参考にさせていただきます。

以下に、今回の「株主アンケート」の結果についてご報告させていただきます。

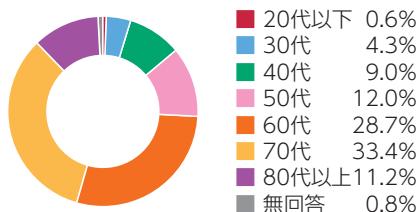
「株主アンケート」概要

アンケート方法	「中間株主通信」にアンケートはがきを同封して実施
アンケート対象者	2017年9月30日時点株主名簿記載の株主様
アンケート対象人数	22,323名
アンケートご回答数	5,195名
アンケートご回答率	23.2%

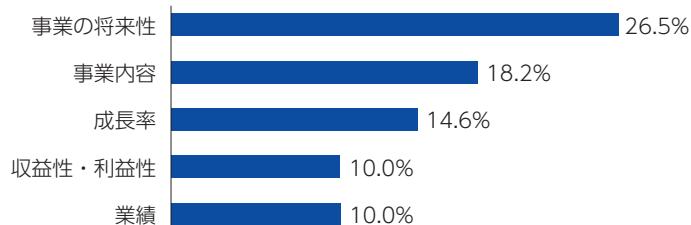
ご回答いただきました株主様の性別



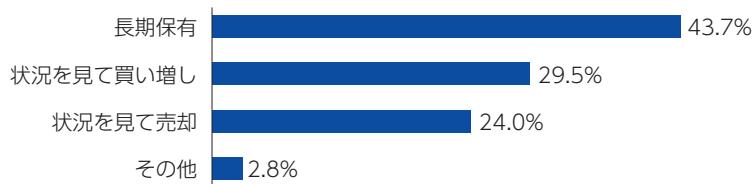
ご回答いただきました株主様の年代



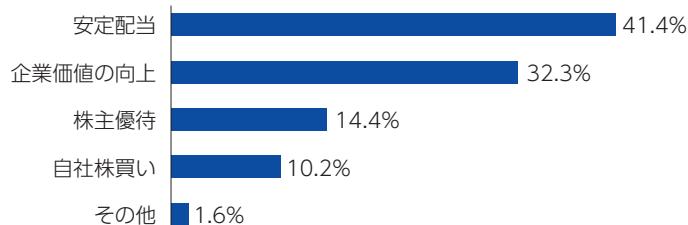
Q 当社株式を購入された際、重視されたポイントをお選びください。(複数回答)(上位5位)



Q 今後の当社株式に関して、あなたのお考えにちかいものをお選びください。



Q 今後、株主還元として、当社に最も期待することは何ですか?(複数回答)



会社概要

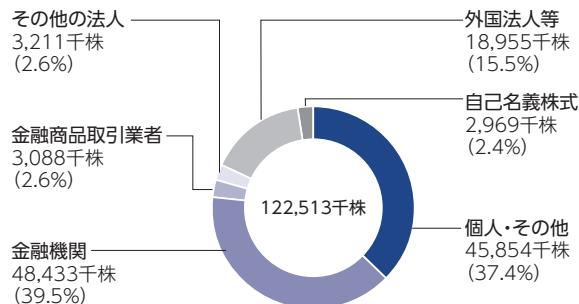
商号	OSJBホールディングス株式会社
	 OSJBホールディングス株式会社
創業	2014年4月1日
資本金	10億円
従業員数	(連結) 825名
事業内容	グループ企業の経営計画ならびに管理
所在地	東京都江東区豊洲五丁目6番52号
URL	http://www.osjb.co.jp/
上場証券取引所	東証 市場第一部
主要取引銀行	株式会社三菱東京UFJ銀行 株式会社三井住友銀行 株式会社みずほ銀行 三井住友信託銀行株式会社 株式会社りそな銀行

※ 株式会社三菱東京UFJ銀行は、2018年4月1日より株式会社三菱UFJ銀行に商号変更しています。

株式の状況

発行可能株式総数	138,809,400 株
発行済株式の総数	122,513,391 株
株主数	20,966 名

所有者別状況



取締役および監査役 (2018年6月27日現在)

代表取締役社長	大野 達也
取締役	橋本 幸彦
取締役	坂下 清信
取締役	竹田 雅明
社外取締役	住江 清
社外取締役	大即 信明
社外取締役	加藤 英明
常勤監査役	久米 清忠
社外監査役	平井 利明
社外監査役	桃崎 有治
社外監査役	小林 弘幸

大株主

株主名	持株数	持株比率
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	26,918,400	22.52%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	6,297,300	5.27%
野村信託銀行株式会社(投信口)	2,911,000	2.44%
資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口)	2,266,100	1.90%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	1,889,500	1.58%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口2)	1,608,800	1.35%
STATE STREET BANK WEST CLIENT - TREATY 505234	1,465,800	1.23%
JP MORGAN CHASE BANK 385151	1,365,871	1.14%
MSCO CUSTOMER SECURITIES	1,356,228	1.13%
NOMURA PB NOMINEES LIMITED OMNIBUS-MARGIN (CASHPB)	1,208,406	1.01%

(注) 持株比率は、発行済株式総数から自己株式を控除した株式数を分母に用いて算出しております。

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日までの1年
基準日	定時株主総会の議決権 3月31日 その他必要があるときは、取締役会で決議し、あらかじめ公告する一定の日 期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
公告方法	当会社の公告方法は、電子公告とする。 ただし、事故その他のやむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合の公告は、日本経済新聞に掲載して行う。
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
(同連絡先)	東京都府中市日鋼町1-1 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 (郵送先)〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号  0120-232-711

単元未満株式の買取制度について

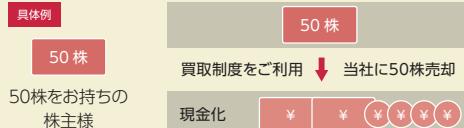
当社では証券市場で株式を売買できる取引単位(単元株式)を100株とさせていただいており、単元未満株式(1~99株の株式)については、証券市場においては売買することができません。

そのため、ご所有の単元未満株式を当社が買い取らせていただく制度(単元未満株式の買取請求)がございます。

単元未満株式の買取請求に関するお手続きの詳細については、お取引先の証券会社等(口座管理機関)にお問い合わせのうえ、お手続きください。また、特別口座に記録されている単元未満株式の買取請求をされる場合は、特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行株式会社にお問い合わせのうえ、お手続きください。

単元未満株式の買取制度を利用

単元未満株式を当社に対して市場価格で売却する制度です。



表紙写真について

付替市道古道橋上部工工事 (大分県大分市)
工事期間: 2017年5月3日~2018年3月20日
施工者: オリエンタル白石



OSJBホールディングス株式会社

〒135-0061 東京都江東区豊洲五丁目6番52号(NBF 豊洲チャンネルフロント)
TEL.03-6220-0601 FAX.03-6220-0602 URL.http://www.osjb.co.jp/



見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。
この冊子は環境保全のため、植物油インキとFSC®認証紙を使用しています。